

# 英語科

## 学習意欲や能力を引き出すための 高3習熟度別クラス編成方法の改善

鈴木 克彦

【抄録】本校英語科では高3英語(3)Bで習熟度別クラス編成を長年行なってきた。いわゆる「リーダー」において展開してきたのだが、基本と思われる「文法」面での学力差が大きく、リーダーの授業が思うようにできないという問題が生じてきた。思い切って文法中心の学力で習熟度別クラスを組んでみることにした。教師と生徒の質問紙法による調査、授業のくふう、評価法などについて論ずる。

【キーワード】習熟度別クラス、英語の基本＝文法、生徒による授業評価、評価方法

### 1. 過去の習熟度別クラス編成方法、内容とその問題点

#### (1) 過去の習熟度別クラス編成方法、指導内容の概要 ——過去の研究紀要から

過去20年以上に渡って、本校では高校3年で英語の授業を習熟度別クラス編成で実施している。Readersの時間を上位から、 $\alpha$   $\beta$   $\gamma$ という3クラス編成で同時展開し、Grammar および Composition の授業を通常のクラス（ホームルームクラス）で実施するという方法である。習熟度別クラス編成の方法は、高校2年のRの担当者が過去一年間の成績を資料にして行なう。人数配分は $\alpha=48$ 、 $\beta=48$ 、 $\gamma$ =在籍数-96である。 $\gamma$ についてはできるだけ少人数で行なえるように配慮するが40名くらいである。尚ホームルームの定員は45名である。また1学期終了後、 $\alpha$   $\beta$ 間、 $\beta$   $\gamma$ 間で数ずつ成績優秀者と不振者の交替を行なう。

小規模校のため、高3であってもコース別のクラス編成はせず、平常のクラス編成を行いながら、選択科目の取り方によって、若干の理系・文系の差が生ずるようになっている。

英語で習熟度別編成を行なっているのは、本校の生徒の実態を考慮しながら少しでも英語学習指導の効果を上げるためと言ってよい。次のように習熟度別クラス編成の根拠を考えている。

- ① 学力差の大きい生徒集団は指導しにくい。
- ② 特にRの授業においては、単語・連語の習得量、英文の構造理解度、内容理解の深度、応用解釈、英問英答式授業の有効度…など、指導上の問題点が多い。
- ③  $\alpha$   $\beta$   $\gamma$ の習熟度別クラス編成にした場合、下位の $\gamma$ クラスでは基本事項の解説や練習、英文の構造把握のために時間を十分にかけ指導することができる。逆に、上位の $\alpha$ クラスではそれらの時間を省くことが

できる。

- ④  $\alpha$ クラスでは、教科書以外の副教材を適宜おり込むことが可能となり、 $\gamma$ クラスでは教科書あるいはそれに密接に関連した事項の指導に集中できる。
- ⑤ 生徒の英語習熟度の差は、このように指導の重点を移すことによって解消できるし、また授業そのもののスピードによっても調節できる。

この学力編成のデメリットとしては、人間関係の摩擦や生徒の劣等感や優越感の増幅につながる恐れがある。CGの授業を通常クラスとしているのは、このことを認識しているからである。

習熟度別クラス編成で大きく効果がでるのは、 $\alpha$ と $\gamma$ のクラスである。学力の進んだ生徒から構成されている $\alpha$ クラス、基本事項の定着していない $\gamma$ クラスにおいてこそ、授業の内容・方法のくふうによる効果が顕著に現われると考えられる。——1980年本校研究紀要「学力差を考慮した英語指導」より

#### $\beta$ クラス

文法説明はかなり詳しく行なった。各課で重点的にまとめてあることはもちろん説明したがそれより基礎の中学または英語(2)での既習事項もまとめて復習しておさなければならぬことが多かった。

例：関係代名詞の継続用法や受け身の分詞構文などそれぞれ、制限用法や、基本的な能動態の分詞構文から説明しないととうにもならなかった。

教材そのものの程度がこのクラスには難しすぎた。実質的に中2～3程度でないと理解できず、一部の特に遅れている生徒はまさに中1の初めからやり直す必要がある。(例：人称代名詞の変化と用法、基本時制、疑問文および否定文の作り方)したがって進路度を遅くしたくらいでは対応できない面であった。

CG (ホームルームクラスでの通常授業)

成績下位の生徒に対する配慮が不十分だった。高校2年生(発表者注:86年度は高2、高3で習熟度別クラス編成で授業を行なった。)として標準的な英語力をもつ生徒から、中学1年生の段階から復習する必要ある生徒まで対応する授業は困難で、成績上位者、下位者のどちらにも授業に対する意欲を引き出すことができなかったことはとても残念だった。——1986年本校研究紀要「高校2年次における習熟度別英語指導の試み」より

評価方法

ホームルーム単位で共通授業を行なうCGの担当者が全員の評価をした後、 $\alpha\beta\gamma$ のそれぞれの生徒の評定平均をCGで出し、Rの各クラスの評定平均がだいたいそれに近くなるようにRの各担当者が評定を出す。ただし、やや $\gamma$ に甘く、 $\alpha$ に厳しくする傾向がある。それでも、 $\alpha$ で赤点が出ることはないし、 $\gamma$ でいかに努力しようとも10段階の6以上の成績もない。

(2) 問題点

① RかGか、どちらが習熟度別クラスに適しているか。

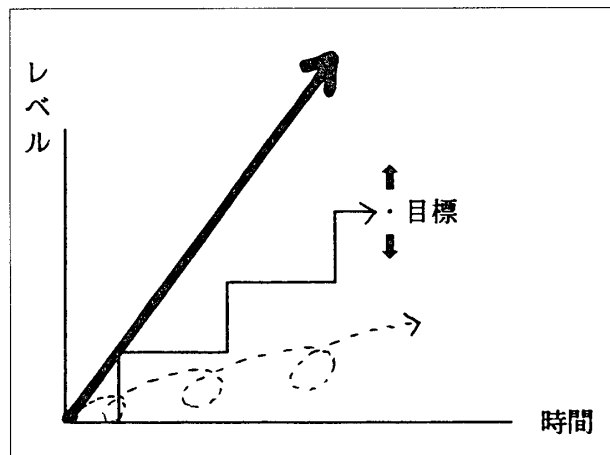
過去の研究紀要で問題点としてよく指摘されていることは、生徒の文法の力不足のため、Rの授業がよく滞ることである。文法の学習のパターンは、発表者の授業経験から、縦軸上方向に学力の深まり、横軸に時間の経過を表すものとすると、生徒の力によって次のように3つのパターンがあるように思われる。例えば仮定法を扱うとすれば、次のようになる。

上位レベル 右上がり直線型 仮定法(過去・過去完了・未来) → if節のない仮定法(理解と定着が同時に) →

中位レベル 階段型/スパイラル型 仮定法過去 → 練習 → 復習 → 仮定法過去完了 → 練習 → 復習(理解と定着が順次に) →

下位レベル 横向きスパイラル型 仮定法過去 → 過去 → 現在 → 仮定法過去 → 練習 → 復習 → 仮定法過去完了 → (既習事項の再構築、理解、定着)

図1



文法の力の差が、語法力、構文力、語彙力等に影響が大である。ストレートに文法の力で習熟度別のクラス編成をしたほうが、授業の効率もよくなる。

その場合Rはどうするか。もちろん、これも習熟度別にした方が良いに決まっている。時間割り編成、教官数などの問題もあり、英語科だけの問題ではなくなる。一斉授業でRをどうするかということ新たに考える必要がある。

② 副教材は上位クラスだけでよいのか。

副教材の使用は、応用力をつけるためだけでなく、理解を助けるための教材も数多く開発されている。下位にも副教材は必要である。英語は言わば「やり直し」させる場面も多く出てくることから、下位層にも適した副教材をもたせ、場合によっては教科書よりも副教材の方に力を注がなくてはならないこともあるかもしれない。

③ 3クラスでよいか。

ホームルーム3クラスで、3展開では、どう気張っても少人数編成は無理である。下位クラスを30名以内にしようとするれば、上位、中位クラスに無理が来る。4展開であれば、それに越した事はない。しかし、それができないのは教官数の不足、講師数増加の予算不足、時間割り作成上の無理などの理由があるが、あえて教官会議に英語4展開の必要性を説き、承認を得た。数学、体育などすでに4展開の前例があるため、また新カリキュラムに変わる時期のため通り易かった。

4展開にした場合、下位クラスの少人数はもちろんだが、上位クラスも少人数にして、かなり高度な内容もじっくりこなせるよう配慮できる。例えば英作文など、上位・下位の差が大きいホームルーム単位の授業では質の高い問題を解くことは不可能である。

#### ④ クラスの入れ替えは有効か

能力別、学力別、習熟度別とことばは変わっても、日本人的な平等感には合わない方法であることは十分承知している。実際本校でも赤裸々に能力別になっているのは英語だけである。数学や体育は生徒選択のため、実質能力別だが、生徒が「自分で選んだ」というところで緩衝帯がはさまれている。英語ほと連命的ではない。クラスの入替えがあることで、一旦落ち着いた人間関係はさらに傷つく。また上のクラスに上がった生徒は、教科書の進度が今までのクラスより速いため、以前のペースならベストであったのが、消化不良を起こし、ついていけない。おまけに2学期の中間テストでは先に進んで習っていない部分を独学で準備しなければならないというハンディまでつく。

#### ⑤ 評価方法は習熟度別にしただけの意味をもった評価をしているか。

ホームルーム単位のGの成績が大きく物を言うため、習熟度別クラスで自分の力に合った方法で努力しても結果としてそれを認めてもらえない。逆に、Gの方でそこそこの評価を得ていれば、多少手抜きをしても安泰であると考える生徒がいて、堂々と「内職」をする生徒が上位クラスにいることもある。教える者として上位クラスで教壇に立っても、下位クラスで教壇に立っても習熟度別にしただけの意味を見いだせず、悶々とした思いで教室を後にすることさえある。かなり冒険的、実験的ではあるが、各クラス独自の評価を出すことで、生徒のやる気を引き出すことができないものか。

### 2. 新しい習熟度別クラス編成方法、指導内容とそのねらい

- (1) Gで行なう。(英語ⅡC) ⇨英語の核となる力を生徒のレベルに合った指導方法で教えることで指導効果を上げる。
- (2) 各クラス別に副教材を選択し、重点的指導を行なう。⇨生徒のレベルに合った教材を使用することで指導効果を上げる。
- (3) 4展開とし、上位クラスと下位クラス人数を少なくする。⇨手厚い指導が可能となる。
- (4) 2学期初めの入れ替えはしない。⇨人間関係や指導効果の継続性を崩さないため。
- (5) 評価方法は共通授業のR(英語ⅡB)の評価に左右されず、各クラス独自に行なう。⇨各クラスの中で生徒の「努力」を評価するため。また上位クラスでの「手抜き」を許さないため。
- (6)  $\alpha \beta \gamma$ の順で、上中下としないで、 $\gamma \beta \alpha$ の順で

上中下とする。⇨小手先の変化の感はあるが、少しでも要らぬ劣等感、優越感の助長を阻止できればと。

### 3. 実践報告と反省

#### (1) 各担当教師への質問紙による調査より

ア 昨年度までの問題点について、次の事以外に何かあれば、報せてください。

- (1) 上位クラスで赤点がないという安心感から、授業に身が入らない生徒が目立つ。
- (2) 下位クラスでいくらがんばっても成績に反映しないため、やる気を削ぐ傾向があった
- (3) 3クラス編成のため下位45名という場合もあり、十分な指導ができない。
- (4) 英語の学力の核となるべき文法の力が上位、下位問わずに弱い。

イ 本年度の改善点で、次のこと以外に何かあれば報せてください。

- (1) 上位クラスでも手を抜けば赤点も有り得ることから授業にも緊張感が出る。
- (2) 下位クラスでもがんばれば、成績に反映される。
- (3) 4クラス編成で下位30名以内の少人数での指導が可能。
- (4) 文法中心の授業にしたことから、各レベルにあったところからもう一度やり直しがしやすい。(下位クラスは中学2年レベルからやり直すとか、上位クラス難関大学を考えた演習問題をするとか)

ウ 各自の授業について

- (1)教科書の使用頻度
- (2) 授業で使用する補助教材
  - ① 市販のもの(タイトル、出版社)
  - ② 自主制作教材
- (3) 指導上の留意点、アイデア、心がけていることなどまた生徒のようすなど。

エ テスト問題作成上の留意点、アイデア、心がけていることなど。

オ 評価上の留意点、アイデア、心がけていることなど。

カ 1学期を終えて問題点をあげてください。

キ その他(ご意見、ご要望)

ア 昨年度までの問題点の指摘(調査用紙に挙げたものの以外)

【 $\gamma$ (上位)クラス】

・上位者でも、難関大入試に対応するタフな学力に乏しい者が多かった。

【 $\beta$ (中位)クラス】

・上位クラスにひどい点を取る生徒がいた。態度も良くない生徒で、少数であったが、落ちこぼれていた。人数が46名くらいで、とても多かった。 $\alpha$  (昨年度の上位クラス)  $\beta$  (中位クラス)  $\gamma$  (下位クラス) の入れ替え (4名程度) を学期末にやったけれど、かなり生徒間ではストレスになったようだ。 $\alpha \rightarrow \beta$  に落ちた生徒で女子の場合、全く元気がなかった。うらまれてしまった。

【 $\alpha$  (下位) クラス】

・Readerをやっていたために、実際上の文法力が足りないため一向に**英語力の向上**に直結していないと思う。その分、生徒たちも学力が向上していることを実感できないし、実際していないのではないか。

イ 改善点 (調査用紙に挙げたもの以外)

【 $\gamma$  (上位) クラス】

・逆に上位レベルの者の中に、2、3がついて不満を持つ者が出ている。

【 $\beta$  (中位) クラス】

・クラス間の入れ替えなしということで、その点は楽 (注: 生徒のストレスや教師への恨みなど)

・人数も38~39名と減り、かなりやり易い。生徒の**質問も活発**に出る。(去年より)

・ $\beta$  が2つあるので、二人の教員で進度を合わせていくのはかなり努力が要る。勝手な余談やためになるかもしれない雑談など入れる暇がなく残念。でも時々少し入れています。

・その反面利点も多い。テスト作りは半分ずつに分けている。教材を選ぶのも二人で決めると本当に楽である。

・3クラス4展開 (下、中、中、上) の場合、分布を見ても分らないが、中間層の広がりが大きくなるか。又、下位クラスの30人という少人数の担当者は生徒の心の問題、気分の問題 etc. で苦勞していらっしやることと思う。「文法を中2のレベルからやり直す」というのは中学の授業の在り方にも随分関わってくると思うが、教科書の出版社の人と先日話していた時、「**現在の中学の教科書の作り方では文法の力はつかない**。高校になって困るだけ。」というのには随分うなずける点があった。**ターゲット**を上位層に当てるならば、ABC $\rightarrow$ 上位 (1) 中 (3クラス) の展開。ターゲットを下位層を当てるならば、ABC $\rightarrow$ 下位 (1) 中 (3クラス) の展開も考えられると思うが、附属の校風からして前者、後者がすでに試みられているかもしれない。いずれにせよ、2クラス3展開は各学校とも実施しやすいが、3クラス4展開で実りあるものにするには、難しい点があると思う。

【 $\alpha$  (下位) クラス】

・(4)にそのままあてはめることができる。

ウ 授業について

(1) 使用教科書  $\alpha \beta \gamma$ とも共通使用 Communicative English Composition IIC (旺文社) 教科書の使用頻度と補助教材 (市販、自主制作を含む) の割合

【 $\gamma$  (上位) クラス】 1学期前半まで100%、後半は補助教材使用。

(英文法の基礎と発展 山口書店)

【 $\beta$  (中位) クラス】 1学期前半まで100%、後半は補助教材使用。

(大学入試英文法問題集 研究社)

【 $\alpha$  (下位) クラス】 20%使用、80%補助教材使用。

(チャート式総合英語 研数書院)

(2) 指導上の留意点、アイデア、心がけていること、生徒のようすなど

【 $\gamma$  (上位) クラス】

・少人数になり、生徒のレベルに合った Question ができるようになった。

・入試 (とくに2次で) 英作文の必要な生徒の**個別添削指導**ができそうである。

・使用中のテキストが終わったら (9月)、入試問題を行ない**実践力をつける**。

プリントで行なう。(未完成)

【 $\beta$  (中位) クラス】

・教科書は去年からの続きで、問題数も少なく、教師指導型の一斉 (講義形式) 授業用のものである。市販の問題集を加えてからは、文法の事項ごと易しい入試問題の演習となり、**生徒中心の授業**ができる。教科書の内容は、問題演習の時、補足説明に加えている。質問も活発に出る。文法参考書を持ってきて疑問点が出るごとに、見るように勧めている。問題点は、問題集の問題でよくないものもある。自主制作したいが、自分でプリントを作るひまがない。一人で3~5科目持っている。問題のレベルがやや高い。(  $\beta$  の中で較差が大きいため)

・〈基礎編〉が終了したら、〈応用編〉に進む予定。ただし、基礎編の段階でも  $\beta$  クラスにおいてかなりヒントが無いと、正解が出せない生徒が殆どである。その為、現在進度も2ページずつしか1回につき進むことができない。この状況で応用編に進んでもいいものかどうかかなり不安。1学期がすでに期末考査までできてしまっている段階なので、これまでの学力は別として、どんどん問題に取り組んでいくしかない。かなり基礎的なことからヒントをくどいくらい出しつつ生徒のやる気を削がないよう、自信をつけさせつつ、先に進んでいこうと思う。ただ、「こちらの意識」と「各個人の生徒の中での英語や他の科目に対する位

置」にずれがありすぎるように思えてならない毎日である。

【α（下位クラス）】

・教室では実際に講義形式をとっていない。各自チャートを必ず持参し、**個別学習**しながら、市販テキストの与えられたchapterを解く。教師は絶えず机間巡視し、声をかけ、質問を一つずつ受け付ける。その後、全員で答え合わせ。

エ テスト問題作成上の留意点、アイデア、心がけていること

【γ（上位）クラス】

・使用しているテキスト通りには出題しない。（上位者だから）eg 解答の文から問題文を書かせる。  
・一度授業で取り上げた教材からは和訳形式の問題は出さない。そこに出てくる重要な単・熟語、構文を書かせる。（日本語ではなく英語に注意させる。）

【β（中位）クラス】

・授業を第1に。まじめにやれば必ずいい点がとれるやりのあるテストを目指す。

$(\text{最高点} - \text{平均点}) \div (10 - 6.5 + 1) = \text{評定}$

10～6の間差

$(\text{評定} 6 \text{ の最下点} - 60) \div 3 + 60 = 4$ （評定）の上点

・使用しているテキストが生徒のレベルよりやや難しいため、基礎的な事項を問う問題を多めにし、**基礎学力の定着**をはかる。難しい問題については、自信がなくなりすぎないように、問題形式を変えて生徒が「**自力で解答までたどり着けた**」という**充実感**を味わうことができるようにする。

【α（下位クラス）】

・なるべく選択肢の問題とし、その量を増やす。中間、期末は選択肢70問でやらせた。

オ 評価上の上の留意点、アイデア、心がけていること

【γ（上位）クラス】

・評価はレポート点を加味しないで、素点だけで行い考査に**真剣味**を加える。

【β（中位）クラス】

・がんばった生徒には高い評価をつける（少数だが9や10もつける）

やる気のない生徒には、低い評価もつける（2や3）

・β<sub>2</sub>の担当者と毎回、進度も問題も合わせているので、2クラス合わせて、できるだけ相対評価に近い形で評価を出す。

【α（下位）クラス】

・自分で学び発見し、教えられてなくても、**自分で学**

**習してゆける**ようにしていくのが目標。

カ 一学期を終えての問題点

【γ（上位）クラス】

・γクラスといえども**差が開きつつ**あり、drop outしそうな者も（もちろん上位者の中であるが）出てきている。

・文法の分野によっては、わからない生徒も出てきているので補習を通じての指導をしていきたい。

【β（中位）クラス】

・「授業を第一に、基本をやっているのだから、しっかりやろう」と言っているのに、もう受験参考書など開いて**内職**している生徒が若干名いる。それを除けば授業態度は**まじめで熱心**で感心する。去年のように**まわりに迷惑をかける生徒**はいない。

・生徒がどんな種類の勉強をどんな形で毎日どのように取り組んでいるのか実像が見えてこないの、果たして自分の展開している授業が本当に彼らに役に立っているのか、このレベルのことが要求されている授業なのかとても心配。目前に迫っている進路に対して、きっと生徒の感覚とこちらの**感覚がずれ過ぎ**ているのかもしれないし、彼らの進路にとつてはこちらがやっていることが位置付けとして低いところにあるのかもしれない…と、つかみどころのない感覚を味わっている。

【α（下位）クラス】

・生徒が授業形式に少しずつ**飽き**てきているようす。2学期、3学期進路が決定した生徒が今と同じように学習に取り組むかどうか。

キ その他

【γ（上位）クラス】 なし

【β（中位）クラス】

・生徒がどう考えているか**アンケートをとる必要**があります。生徒の要望に合った授業をしてゆきたいけれど、今の問題集はやや難のため、生徒は「教科書だけやってほしい」という子も10名ほどいます。問題集がいいという子は14名。あとの生徒はどちらでもいい。今後の進め方が課題と思います。

・2～6に記入してある事項が「的はずれ」なことばかりかもしれませんが、他に何かお手伝いできることがあったら言って下さい。

【α（下位）クラス】

・今よりも（25人）人数が増えたら、手に負えない。**教生がいるときに手伝ってもらった**らすごく充実したため、2名程で可能だろうが、TTをすると、より充実すると思う。

(2) 教師への調査から

・指導上の問題点で、今年新しく県立高校から転勤してみえた先生からのご指摘に、中学レベルから復習が必要というのは中高一貫校として、中学時の英語指導はどうなっているのかとあった。痛いところを突かれたという思いだ。

● 発表者である私はもともと名古屋市立中学の教師であった。文法の扱いについては、中学では「糖衣錠」として与える。つまり、あまり文法用語を振り回さず、品詞の区別に神経質にならず、まとめのところで文法用語を用いる。文法を教えるというより、「表現法」として教える。ところが、高校の教壇に立つや、文法用語の飛礫が容赦なく生徒に投げ付ける。文法用語でまとめておかないと、指導したことにならないし、生徒も頭の中が整理がつかないのではないと思うからだ。中高英語の間（はざま）の時期の高1での授業のある場面である。文の解釈をするとき、句や節を名詞的なのか形容詞的なのか副詞的なのかを区別をつけさせ、説明しようとする、生徒は名詞、形容詞、副詞の文法的な機能を知らないという場面に多く遭遇する。

・今回の試みは、各クラスの担当者の責任を重視する方針とも言える。それは評価のときに共通クラスでの成績を考慮しないところから言える。各クラス担当者が思う存分立ち回ってもらおうという趣旨とも言える。しかし、βクラス2クラスは同一副教材で、同一進路でということなのだが、返ってここはチームワークの良さを発揮していただけたようだ。

・教師の手伝いが有効だったという報告は、1985年の本校紀要にもあった。本校は名古屋大学構内に位置し、母体の教育学部も徒歩で5分ほどの近さ。学部学生を恒常的にこの授業に呼んで、「小先生」として使えないか。もちろん大学の正式な単位として学部生に単位を与えることを条件に。

(3) 生徒の調査

a 調査対象 高3 135名(欠席5名) 調査月日 7月10日～15日にホームルームクラス単位に発表者がRの時間を使って行なった。

b 調査項目

ア αβγのどのクラスに所属するか。

● イ 英語への興味について好き嫌いを5段階で表す。  
ウ 習熟度別クラスについて①授業の理解度②教科書の内容の理解度③補助教材の理解度④テストの難易度⑤英語の力の定着度の5つの項目について5段階で表す。

エ 比較のため共通英語ⅡBについて、習熟度別クラ

スについて尋ねたのと同様の5つの項目について5段階で表す。

オ 習熟度別クラスの目的や昨年までとの違いを説明後、このクラス編成について、賛否を5段階で表し、この理由を記述式で答える。

c 結果分析

クラス別に高2年時のRとGの評定(学年末は5段階評定)、3年1学期のGとRの評定(10段階評定)および各調査項目ごとに、0、1、2、3、4と点数化し平均値を表したのが次の表である。なおα=25名、β=76名、γ=33名である。

ア 評定に見る習熟度別クラスの違い

ここでは、各クラスが共通のRの成績に拘らず、各クラス内でどれだけ努力したかという部分を重視して評定をつけるということに関して言及する。

こうして並べて比較してみると3年1学期の評定は、下位クラスが一番低く、上位クラスが一番高い。極めて当たり前の結果のようだが、3年時のRや2年時RGとの比較をしてみると、下位クラスには比較的甘く、また上位クラスにはややきつい評価になっていることが分かる。それを次のような方法で調べてみた。

**3年時のGの評定×3 - 0.19×3年時のRの評定 - 2年時の(2×Rの評定+2×Gの評定)**

(注: 0.91という係数は3年時RとGの評定平平均値の差が大きいため補正する目的をもつ)

この計算値が大きいほど、他の科目に比べて「優遇されている」と見るべきか「よく努力している」と見るべきか、評価は甘く出ていると見てよい。結果α=1.6、β=-0.6、γ=-4.8とαの4.2は決して低いとは言えない。むしろγの-4.8から7.0はかなり厳しい点と言える。

ところで、生徒の個別の成績を数名見てみよう。仮に上述の計算式で求められる値をPとしておこう。αにはP=6の生徒が2名いるのだが、彼らが調査用紙に答えたものからそのプロフィールを見るとGの授業に対する彼の評価は17(20点満点)と高い。彼自身は英語は嫌いである。Rの授業評価は2と低い。彼はGの授業のねらいには「良くない」(=0)と答えており、コメントは「上にあげてくれ!!!!」である。「上」とはβクラスのことである。この生徒にはGの授業形態は合っていると思われるのだが、下位クラスのいるという劣等感があるのだろうか。もう一名のP=6は調査当日欠席。

γクラスではP値がマイナスの者が33名中28名。最大値は-12。ただしこの生徒は精神面でのトラブル

授業評価のための質問紙

英語の授業（リーダーとグラマー）についての調査

組  番 氏名

1 あなたはGではどのクラスですか。  
 $\alpha$ （三小田）  $\beta$ （有田、仲田）  $\gamma$ （平松）

2 あなたは英語が好きですか。

3 Gのクラスでの授業について尋ねます。よく分かる 大体分かる ぶつ 少し分からない 分からない

(1) あなたの授業の理解度はどれくらいですか。

(2) あなたにとって教科書の内容の程度はどれくらいですか。

(3) 先生の準備する教材は分かりやすいですか。

(4) テストは難しいですか。

(5) 英語の力がつきましたか。

3 Rのクラスでの授業について尋ねます。よく分かる 大体分かる ぶつ 少し分からない 分からない

(1) あなたの授業の理解度はどれくらいですか。

(2) あなたにとって教科書の内容の程度はどれくらいですか。

(3) 先生の準備する教材は分かりやすいですか。

(4) テストは難しいですか。

(5) 英語の力がつきましたか。

4 Gの授業のねらいについて

本年度のGの展開クラスは次のような方針でクラス分けを行ないました。

① 2年生での英語の成績をもとに緩やかな成績別のクラス分けを行いました。

② 昨年までは3クラスだったのを、きめ細かい指導をするため、4クラス編成にしました。

③ 昨年まではRで行なっていましたが、実力に合わせて基礎から応用まで対応できるように英語力の核となるGで行ないました。

④ 評価は各クラス別に行ないます。従って、どのクラスでもがんばれば10、9、8などのよい成績が得られます。また手を抜けば、どのクラスでも赤点を取る可能性があります。

⑤ 通年で入れ替えはありません。

(1)このクラス編成法についてどう思いますか。良い 少し良い ぶつ 少し良くない 良くない

(2)(1)で○にした項目の理由を記述してください。

表1 クラス別の評定平均

クラス	2年		3年		3年時のGと他科目の関係
	R	G	R	G	
$\alpha$	2.0	2.1	3.3	4.2	1.6
$\beta$	3.2	3.2	6.5	6.1	-0.6
$\gamma$	4.3	4.5	9.0	7.0	-4.8
全	3.3	3.3	6.5	5.9	-1.2

から突然欠席が多くなり、テストも受けていない。P = -11の生徒はGの授業評価は9 (Rは10) とふつうといえる。英語は好き。しかし、授業のねらいについてもふつうと答えているが、コメントは「いい点もあるとは思いますが、 $\gamma$ のクラスにぎりぎりに入っている私は赤点取りやすいと思う。ずるい。そんなんならもう1つ下のクラスがよかったって思うこともある。」

イ 授業への思い

- $\alpha$ クラスへの授業評価11.7 (満点20) は高い。英語嫌いが大多数であるのに、これだけの評価を得たということはRの授業と比較しても、 $\gamma$ クラスの授業は成功であると見て良い。

- $\beta$ クラスの授業評価9.6は、R9.5とほぼ同じ数値となった。Rが真ん中辺りのレベルの生徒をターゲットにしていることからすれば、 $\beta$ 9.6は妥当な数値だと思う。

- $\gamma$ クラスの授業評価10.3はR 13.5と比較して低いように思えるが、Rは $\gamma$ レベルの生徒には比較的理解しやすいため、この差が出たと思われる。むしろレベルの高い生徒には実力+ $\alpha$ という要求水準で行なわれる授業が想像される。

- G Gの授業に対する意見では、予想通り、 $\alpha$ クラスの生徒は好感をもって受け入れている。しかし、英語が好きで授業にもまじめに取り組んでいる $\gamma$ クラスの生徒たちには嫌悪されていることが読み取れる。

- 意見の中のコメントの文章をもう少し見てみよう。

( ) 内の生徒の評価点。4点満点。

【 $\alpha$ クラス】

☆結果と成績がセットになっているから良い。(4)

☆無理をしないでよくわかる。レベルはほとんど同じなので頑張ればいい所へ行ける。(3)

☆同じようなレベルで競い合えば少しずつ成績が上がると思う。上のクラスと一緒にだとやる気がなくなる。(4)

☆ $\alpha$ クラスは人数が少ないから和やか。(4)

【 $\beta$ クラス】

☆自分の英語力に合わせて力をつけていけるから、いいと思う。(3)

☆学期ごとの入れ替えがあった方がやる気が出る。(1)

☆真ん中のクラスでもそこで頑張ればよい成績がとれるから。(3)

☆どのクラスでも10、9、8といい成績が取れるのはいいけれど、 $\alpha$ クラスの方が私より成績がいいというのは納得がいかない。成績別の授業は賛成。(2)

☆授業内容についていけない場合や物足りない場合本人の希望でクラスの移動を認めてほしい。(1)

☆ $\beta$ クラスは成績の幅が広くて、難しいと思うことがあるので、4クラスなら4つのランクに分けてほしい。(1)

☆実力テストでの編成にしてほしかった。(0)

☆前々からわかっていればわざと下のクラスに入って上位をとることができる。ぎりぎりの上のクラスに引っ掛かるとちょっとまずい。(2)

☆自分で選べないのが不満。上下差がひろがる。(0)

表2 生徒の授業評価

クラス	英好嫌	3 Gの授業について						4 Rの授業について						意見
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	計	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	計	
$\alpha$	0.8	2.5	2.3	2.7	1.6	2.7	11.7	1.1	1.0	1.6	0.5	1.7	5.8	3.2
$\beta$	1.8	2.0	2.0	1.9	1.5	2.1	9.6	2.0	1.9	2.2	1.4	2.1	9.5	2.1
$\gamma$	3.0	2.4	2.3	2.1	1.2	2.4	10.3	2.9	2.7	3.0	2.4	2.5	13.5	1.1
全	1.9	2.2	2.1	2.1	1.4	2.3	10.2	2.1	1.9	2.3	1.5	2.1	9.8	2.0



- ☆すべて共通にした方がよい。(2)
- ☆G じゃなく R の方で、能力別クラスをやってほしい。(2)
- ☆ $\alpha$  や  $\gamma$  は変わったかもしれないが、 $\beta$  は何も変わっていない。(1)
- ☆数学みたいに自分のやりたい分野の勉強がしたい。長文、文法、語彙とか。(0)
- 【 $\gamma$ クラス】
- ☆ $\gamma$  の人で手を抜きそうな人はいないので困る。がんばっているのにまわりの子たちができるのでさぼっているように見られる。(1)
- ☆ $\gamma$  でいくら頑張っても1や2がつくのはどうしても理解できない。同じ内容のテストではないのだから評定も1や2を敢えてつけることはやめてほしい。(0)
- ☆張り合いはあるが、成績が急激に下げられるのが嫌だ。(2)
- ☆成績の付け方は今までは下の方に固まって、あまり変動がなかったけど、これだと頭のいい方はいい方で競って、下は下で競っていいと思う。(4)
- ☆推薦を取りたいのに、この評価方法は困る。2学期からならそれでもよいが。(0)

## 5. これからの課題

表3 実際の評価

評価	$\alpha$	$\beta$	$\gamma$	R
10		2	4	14
9		3	4	19
8		7	4	18
7		17	6	20
6	2	13	9	18
5	9	26	4	9
4	8	6	1	17
3	5	2	1	18
2	1			
1				1

### (1) 評価方法に関して

$\gamma$ クラスの不満が噴出しているという感じだが、実際には $\gamma$ では赤点が出ていない。調査段階での指示文で、 $\gamma$ の生徒を脅しすぎだったかもしれない。Rで10、9を取っている生徒が $\gamma$ の構成メンバーの主体になっているだろうが、その中でもこれだけの差が出てしまう。

また、 $\alpha$ で10、9、8などの高成績も出ていない。評価表を見ると、昨日までとの違いは $\beta$  $\gamma$ での成績の幅が大きくなったことだ。 $\beta$ で9、10がつくことはなかった。努力点を大いに評価した結果であろう。 $\gamma$ での3、4もますないことだったが、これを手抜きと見るか、 $\gamma$ のクラス生徒が言うように、相対的なものと見るか。英語科の中でも今後議論していきたい。

Rで3、4の成績の生徒の合計は35名。この生徒たちが $\alpha$ がの構成メンバーと思われるが、5、6という成績を11名の者がもっている。これも努力点を評価した結果と言える。

### (2) 習熟度別編成に関して

総じて生徒は習熟度別クラスに好意的だ。下位クラスほど返って、同レベルの者同志の方が安心感をもてるようだ。

$\beta$ 担当者から提案のあった上位中心または下位中心にというのは、中学の選抜方法が変わってからレベルの高い生徒が多くなり、且つ上下差が狭まっていけば考えられることだ。

また、年度途中の入れ替えは生徒の意向も踏まえた上で、上位・中位間で行なってもよいのではないか。それを励みにして、学習している者も中位クラスで居るから。

### (3) 授業内容の改善に関して

$\alpha$  $\gamma$ での少人数の影響は大きい。両方のクラスの生徒から「担当の先生が目が行き届き、目をかけてもらっている。」という声を聞いた。こうした教師とのコミュニケーションが十分にとれるのは、担当の先生のお人柄の影響もあるが、「少人数」という学習環境の所為だ。

成績、授業調査個別資料

αクラス

組番	通番	組	二年		三年		関係	英	G の授業					計	R の授業					計	意
			R	G	R	G			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
C07	1	α	2	2	3	6	7	0	4	4	4	3	2	17	0	0	0	0	2	2	0
C27	2	α	2	2	3	6	7	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	
A15	3	α	2	2	4	5	3	2	3	2	4	2	3	14	0	0	1	1	2	4	2
A28	4	α	2	2	4	5	3	0	3	3	3	2	3	14	0	0	0	0	0	0	4
B03	5	α	2	2	3	5	4	0	4	4	4	0	4	16	1	1	1	1	1	5	4
C04	6	α	2	2	4	5	3	4	3	3	3	2	3	14	2	2	2	1	2	9	3
C05	7	α	2	1	3	5	6	0	2	1	2	1	3	9	1	0	2	0	1	4	4
C14	8	α	2	2	3	5	4	0	3	3	2	2	3	13	0	0	2	0	0	2	4
C28	9	α	2	3	4	5	1	0	1	2	2	2	2	9	2	0	2	0	2	6	4
C37	10	α	2	3	4	5	1	1	3	2	2	2	3	12	1	1	2	1	2	7	4
C42	11	α	2	2	4	5	3	2	3	2	2	1	3	11	1	1	1	0	2	5	4
A12	12	α	3	3	3	4	-3	2	4	3	4	1	3	15	2	2	3	0	3	10	3
A25	13	α	1	2	3	4	3	0	1	1	2	1	3	8	0	0	0	0	1	1	4
B01	14	α	3	2	3	4	-1	0	3	3	3	2	3	14	2	2	2	1	2	9	3
B02	15	α	2	2	3	4	1	0	3	1	2	1	3	10	0	0	1	0	1	2	3
B17	16	α	2	2	3	4	1	1	2	2	2	2	3	11	1	1	1	0	2	5	2
B29	17	α	2	3	5	4	-3	1	2	2	3	2	2	11	2	2	2	2	2	10	4
B33	18	α	2	2	3	4	1	3	3	4	4	2	3	16	3	2	2	0	3	10	2
C13	19	α	1	1	3	4	5	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	
A37	20	α	2	2	3	3	-2	0	2	2	3	2	2	11	2	2	2	2	2	10	3
B06	21	α	3	2	4	3	-5	3	3	3	2	2	3	13	3	3	2	2	3	13	3
B07	22	α	2	2	3	3	-2	0	4	4	4	3	3	18	1	2	3	1	1	8	4
B30	23	α	2	2	3	3	-2	0	0	0	0	0	2	2	1	1	2	0	2	6	2
C02	24	α	2	2	3	3	-2	0	2	2	3	1	2	10	0	0	3	0	2	5	4
A07	25	α	1	2	1	2	-1	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4
	平均値		2.0	2.1	3.3	4.2	1.6	0.8	2.5	2.3	2.7	1.6	2.7	11.7	1.1	1.0	1.6	0.5	1.7	5.8	3.2

英語科 学習意欲や能力を引き出すための高3習熟度別クラス編成方法の改善

βクラス

γクラス

組番	通番	二年		三年		関係	Gの授業					Rの授業					計	意		
		R	G	R	G		英	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)			(5)	
A32	1β	3	4	9	10	8	2	3	3	4	3	4	17	2	2	4	2	3	13	2
B25	2β	4	4	9	10	6	0	2	2	2	1	2	9	2	2	1	2	9	2	
A03	3β	3	3	8	9	8	3	4	3	4	3	4	18	3	3	3	2	2	13	4
A08	4β	4	3	9	9	5	3	3	3	1	2	3	12	3	3	2	2	3	13	4
B44	5β	4	4	9	9	3	1	3	2	3	2	3	13	3	2	3	2	3	13	3
A43	6β	3	4	9	8	2	3	4	3	4	2	3	16	4	4	4	3	3	18	4
C09	7β	4	4	9	8	-0	3	1	1	2	2	1	7	2	2	3	2	2	11	0
C12	8β	3	3	8	8	5	4	4	4	4	2	3	17	3	4	4	1	4	16	3
C19	9β	4	4	9	8	-0	4	2	2	2	1	2	9	3	1	3	2	3	12	3
C34	10β	3	3	6	8	7	0	2	2	2	2	10	2	2	3	1	2	10	3	
C35	11β	3	3	7	8	6	2	2	1	1	0	2	6	1	1	1	0	2	5	2
C40	12β	3	4	8	8	3	3	4	4	3	3	18	3	3	3	1	3	13	1	
A05	13β	3	3	7	7	3	1	3	2	1	3	12	1	1	1	1	3	7	1	
A06	14β	3	4	8	7	-0	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	10	2	
A27	15β	3	3	8	7	2	0	1	1	1	2	7	2	1	2	2	2	9	4	
A29	16β	3	4	8	7	-0	2	3	3	4	2	3	15	2	2	2	2	3	11	4
A31	17β	3	3	7	7	3	0	2	1	2	1	2	8	2	2	2	0	2	8	2
A39	18β	3	4	8	7	-0	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	10	1	
A41	19β	3	3	7	7	3	3	4	4	3	2	16	3	3	3	2	3	14	3	
B15	20β	4	5	7	7	-3	1	4	4	4	2	15	2	3	2	1	0	6	0	
B18	21β	3	3	6	7	-4	4	3	3	3	2	13	1	1	2	1	2	7	3	
B23	22β	4	4	7	7	-1	2	1	1	1	3	2	8	1	1	2	1	7	2	
B31	23β	4	4	9	7	-3	3	4	3	3	2	14	4	3	4	2	3	16	1	
C06	24β	3	4	8	7	-0	2	3	3	3	2	14	2	3	3	2	3	13	2	
C16	25β	4	4	7	7	-1	4	3	3	2	1	13	3	1	2	1	4	11	0	
C20	26β	3	4	8	7	-0	0	2	1	2	0	2	7	1	0	2	1	2	6	1
C29	27β	4	4	8	7	-2	3	3	4	4	2	3	16	3	2	3	2	3	13	2
C30	28β	4	3	8	7	-0	1	2	2	2	2	10	2	2	2	1	2	9	3	
C44	29β	3	3	6	7	-4	3	4	3	2	2	3	14	3	3	3	2	2	13	3
A20	30β	4	4	8	6	-5	3	2	3	3	2	3	13	2	2	2	2	10	2	
A21	31β	3	3	7	6	-0	2	3	2	2	2	11	2	2	3	2	2	11	2	
A24	32β	4	4	7	6	-4	3	2	1	2	2	9	1	1	2	2	2	8	2	
A26	33β	3	4	7	6	-2	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
A34	34β	3	3	7	6	-0	2	2	3	1	2	3	11	2	2	2	2	10	2	
A44	35β	4	4	8	6	-5	0	2	2	2	2	10	3	3	3	2	3	13	2	
B10	36β	3	4	8	6	-3	1	2	2	2	1	3	10	3	3	3	2	14	3	
B11	37β	3	3	6	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B21	38β	2	3	5	6	3	2	2	2	2	2	3	11	2	2	1	2	9	2	
B24	39β	3	3	6	6	1	4	1	1	1	2	3	8	2	3	2	1	3	11	3
B43	40β	5	5	5	6	-7	3	2	2	2	2	3	11	2	3	3	2	2	12	2
C32	41β	4	3	7	6	-2	3	3	3	2	2	3	13	2	2	1	2	9	2	
C39	42β	3	3	7	6	-0	2	3	4	4	2	15	2	2	2	2	2	10	3	
A02	43β	3	2	4	5	1	2	2	2	2	1	3	10	2	2	2	1	3	10	2
A09	44β	3	2	4	5	1	0	1	1	1	0	2	5	2	1	2	0	2	7	0
A10	45β	3	3	5	5	-2	0	3	3	2	0	2	10	2	1	1	0	2	6	4
A13	46β	3	3	6	5	-2	1	2	3	2	2	11	2	2	3	2	2	11	2	
A19	47β	3	2	5	5	0	0	2	1	1	2	2	8	1	1	1	1	2	6	1
A36	48β	3	3	5	5	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A38	49β	3	3	6	5	-2	0	1	1	1	1	2	6	1	1	1	1	2	6	1
A42	50β	2	3	3	5	2	0	0	1	0	1	0	2	0	1	1	0	0	2	2
B08	51β	3	2	5	5	0	2	1	1	1	0	2	5	2	1	2	0	2	7	3
B09	52β	3	3	5	5	-2	2	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	10	0
B12	53β	3	4	4	5	-3	0	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	10	3
B14	54β	3	3	7	5	-3	1	3	2	1	2	3	11	2	2	3	2	2	11	2
B19	55β	4	3	7	5	-5	3	3	3	3	2	13	3	3	3	2	3	14	4	
B26	56β	4	3	6	5	-4	2	0	1	1	1	2	5	3	3	2	2	2	12	1
B28	57β	2	3	4	5	1	2	1	2	2	1	0	6	1	2	1	0	0	4	2
B34	58β	3	3	6	5	-2	2	3	2	2	2	3	12	3	2	4	2	3	14	3
B35	59β	3	3	5	5	-2	2	2	2	1	1	3	9	3	2	2	1	2	10	3
B40	60β	3	3	4	5	-1	3	2	2	2	2	1	9	2	3	2	2	1	10	1
B42	61β	4	3	6	5	-4	2	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	10	2
C10	62β	3	3	7	5	-3	2	3	2	2	2	2	11	2	2	2	2	3	11	2
C11	63β	3	3	4	5	-1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
C15	64β	3	3	6	5	-2	2	0	1	1	0	0	2	2	1	3	2	3	11	2
C17	65β	3	3	6	5	-2	0	1	0	1	1	2	5	2	1	1	0	1	5	2
C23	66β	3	3	4	5	-1	0	2	2	2	2	2	10	2	1	3	2	2	10	2
C25	67β	3	3	7	5	-3	2	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	10	2
C31	68β	3	3	6	5	-2	3	0	2	2	0	1	5	4	1	4	1	3	13	1
A01	69β	3	2	6	4	-3	2	1	1	1	1	1	5	2	2	1	1	1	7	2
A33	70β	3	2	4	4	-2	0	0	1	0	1	2	4	1	1	2	1	2	7	2
B16	71β	3	3	4	4	-4	1	3	2	2	2	3	12	2	1	2	2	9	3	
B32	72β	3	2	4	4	-2	4	1	0	1	0	2	4	2	4	3	1	2	12	3
C03	73β	3	3	6	4	-5	2	1	2	2	1	2	8	2	2	2	1	2	9	2
C26	74β	3	3	6	4	-5	0	0	1	0	0	1	2	1	1	1	0	1	4	1
B05	75β	2	2	6	3	-4	3	0	2	0	0	0	2	0	2	3	2	0	7	3
C41	76β	3	2	5	3	-6	1	2	2	2	2	0	8	2	2	2	2	0	8	2
平均値		3.23	2.6	5.6	5.1	-0.6	1.82	0.2	0.1	0.9	1.52	1	9.62	0.1	9.2	2.1	4.2	1	9.52	1

組番	通番	二年		三年		関係	Gの授業					Rの授業					計	意		
		R	G	R	G		英	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)			(5)	
A22	1γ	5	5	10	10	1	4	2	2	2	2	1	9	2	2	2	2	2	10	0
A45	2γ	5	5	10	10	1	4	2	3	1	2	2	10	4	2	4	2	1	13	2
B39	3γ	5	5	10	10	1	3	3	2	2	1	3	11	3	2	4	2	3	14	2
C24	4γ	5	5	10	10	1	4	4	4	4	3	2	17	3	4	3	3	2	15	7
B22	5γ	5	5	10	9	-2	2	4	3	3	2	3	15	4	4	4	4	2	18	2
B37	6γ	5	5	10	9	-2	2	1	2	2	1	2	8	3	3	3	2	2	13	1
C01	7γ	5	5	10	9	-2	2	2	2	2	2	10	4	4	4	4	4	20	0	
C45	8γ	5	5	10	9	-2	3	2	3	3	0	3	11	4	3	4	2	3	16	1
A14	9γ	5	5	10	8	-5	2	2	2	1	0	2	7	4	3	3	2	3	15	0
A23	10γ	4	3	10	8	1	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
B13	11γ	4	5	10	8	-3	4	4	4	2	2	4	16	4	2	4</				